

熊本大学広報誌

熊大通信

vol.

38

2010 AUTUMN

特集Ⅰ

未来を創造する 熊本大学の“^{シーズ}知の種”

特集Ⅱ

熊大の総合効果は1,000億円超
地域経済の一翼を担う熊本大学



国立大学法人
熊本大学

Kumamoto University



CAMPUS SCENES キャンパスの風景

薬学部 宮本記念館前

今年、創立125周年を迎える薬学部。正門横に建つ「宮本記念館」は、卒業生である故・宮本佳博氏の寄付により建設され、国際学術交流、研修の場として活用されている。併設する「熊薬ミュージアム」には薬学部の歴史的な史料などが展示公開されている。

熊大通信 vol. 38

2010 AUTUMN



熊本大学広報誌 熊大通信

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119
Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】 熊大通信編集委員会
矢加部 和幸 / 委員長・政策創造研究教育センター
溝淵 園子 / 文学部
河野 順子 / 教育学部
岸本 太樹 / 法学部
渋谷 秀敏 / 大学院自然科学研究科
田中 智之 / 大学院自然科学研究科
米満 孝聖 / 大学院生命科学研究部
首藤 剛 / 大学院生命科学研究部
田中 尚人 / 政策創造研究教育センター
西村 兆司 / マーケティング推進部広報戦略ユニット

【制作】 株式会社カラーズプランニング

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 未来を創造する 熊本大学の“^{シーズ}知の種”
- 09 研究室探訪 フィールドワークと科学研究で“^{しほ}植物の種”の謎を解き明かす
理学部理学科 生物環境プログラム・
大学院自然科学研究科理学専攻 生命科学講座
植物多様性学研究グループ
- 11 特集Ⅱ 熊大の総合効果は1,000億円超
地域経済の一翼を担う熊本大学
- 13 国際交流 水の都 熊本から発信！
世界の地下水をマネジメントする「環境リーダー育成プログラム」
- 15 卒業生ジャーナル
- 17 Information

表紙/水槽内の水質浄化に利用される、マイクロバブル発生装置



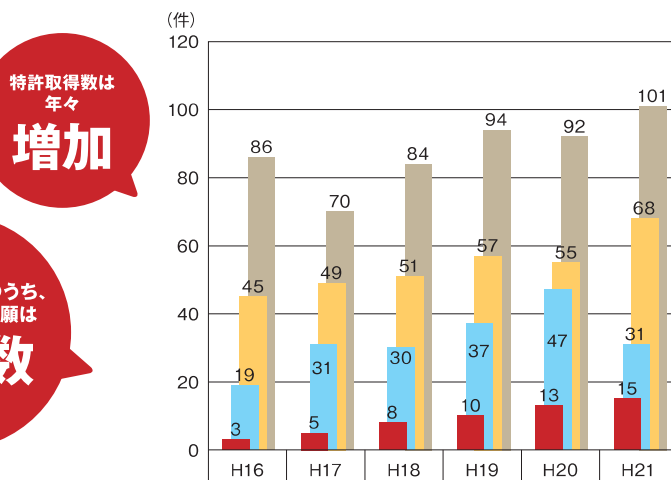
熊本大学では、毎年数多くの研究・発明が行われています。
研究成果の中には、特許取得に至るものから
企業がすぐにでも利用可能な成果有体物まで多数あります。
このような学内の優れた研究を“大学の財産”として活用するために
熊大では、特許の取得や企業への技術移転などを積極的に行っています。
大学が保有する知的財産を社会と結び付けることで
産業の活性化を図るだけでなく、
学内の研究活動の高まりや企業が持つ課題の解決、
さらなる研究のための資金獲得にもつながっています。

特集 I

未来を創造する 熊本大学の“^{シーズ}知の種”

熊本大学は、研究成果の実用化に向けて
特許出願・取得を行い、産業界に技術移転しています。

● 熊本大学の発明・特許に関する実績



特許取得数は
年々
増加

特許出願件数のうち、
企業との共同出願は
約半数

研究の実用化に向けた
特許出願件数

年間約

70件

新規発明の
届出件数

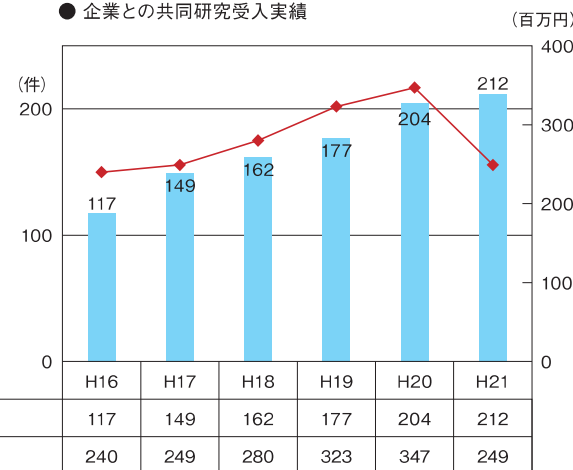
年間約

100件

企業との共同研究
受入件数は5年前に比べ

約2倍!

● 企業との共同研究受入実績



熊本大学での研究成果を
産業界に移転した数

78件^{*}

*移転内容はP&Iリスト参照



01 HSP[※]の働きを活性化させる 生薬成分発見で特許取得！ 新タイプの理想のクリーム誕生



今年1月に再春館製薬所が商品化した、新しいタイプのクリーム

熊本大学薬学部附属創薬研究センター（センター長 水島徹熊本大学生命科学研究部教授）が発見した「ヤバツイ」の抽出物が注目を集めています。「ヤバツイ」は、中国で古くから生薬として使われている、キク科の植物。今年1月、熊本の製薬会社「再春館製

薬所」から、「ヤバツイ」を使用した新しいタイプのクリームが発売されました。同センターは、平成18（2006）年4月に、熊本大学発の新薬などを開発する専門組織として発足。平成19（2007）年に、企業とともに「熱



「ストレスへの耐性を高め、自らの回復力を高める働きを持つHSP誘導物質の可能性は、まだまだあります」と語る水島徹センター長

シヨクタンパク質」[※]以下HSP）の持つ機能の研究を始めました。

紫外線にさらされることで作られるメラニンは、肌のシミの原因。しかし、逆に紫外線から肌を保護する役割も担っているため、単にメラニンの生成を抑制すると、紫外線による皮膚障害などを引き起こしてしまいます。研究の結果、HSPは、このメラニンの生成を抑えながらも、紫外線の害を防ぐ力も兼ね備えることが明らかになったのです。

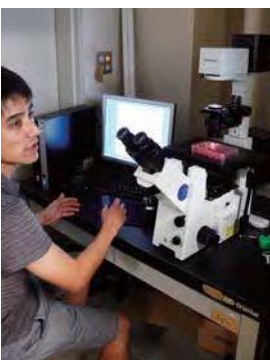
天然由来のHSP誘導剤を製造 企業と商品開発し発売へ

同センターでは、中国で使用されている生薬の中から、HSPの機能を高める原料を探すために約400種以上の生薬で実験を行った結果、「ヤバツイ」の抽出物が表皮細胞で強力にHSPを誘導することを発見し、HSP誘

導剤の製造に成功しました。同センターは、この薬剤とその製造方法で特許を取得しています。その後、副作用や安全性などの研究を重ね、再春館製薬所とヤバツイエキスを配合したHSP誘導化粧品を共同開発しました。今後も共同研究を重ねて、さらに肌にとって有用な誘導剤を探したいとしています。

また、同センターはHSP誘導物質が潰瘍（かいよう）性大腸炎やアルツハイマー病などに有効であることをすでに確認しており、「ヤバツイ」からHSP誘導物質を単離し、治療薬としての開発を進めています。

「命を守る医薬品の商品化は、人々の生活に直結しています。大学と企業が手を組むことで、これからも世の中に役立つ薬や化粧品が生まれるよう研究を進めたい」と水島センター長。学生たちも、自分たちの研究が社会で役立つという実感でき、研究へのモチベーションアップにつながっています。



「先生の指導のもとで行った自分たちの研究が、皆さんの役に立ってうれしい」と語る学生

人工関節の寿命が2倍に伸びた！ 炎症も抑える表面ナノ加工技術

人工関節の摩擦と炎症を同時に抑制する画期的な技術を、熊本大学大学院自然科学研究科先端機械システム講座の中西義孝教授が開発。「人工関節の表面ナノ加工技術」で国内・国際特許を取得し、国内外の企業と契約を結び、さらなる安全性と長寿命化を研究すると同時に、海外へと活動の幅を広げています。

中西教授が開発した「人工関節の表面ナノ加工」は、可動部分の表面にナノレベルの凹凸を付ける技術です。可動部分の金属と樹脂がすれ合うことで生じる粒子を1マイクロメートル以上の大きさにして、炎症を抑制。樹脂の摩擦を減らし、従来、約20年だった人工関節の寿命を2倍の40年ほどに延ばすことにも成功しました。



先天性の病気に苦しむ人にも快適な人工関節を考案するために、企業と連携を取り、技術開発に取り組む中西教授



膝の動きを6方向に分けて数値化する「6自由度膝動態計測システム」。患者の症状を数値化することで確定診断に役立つ。すでに熊本大学医学部附属病院にて実用化

この技術は、人工心臓や人工血管などの人工臓器のほか、摩擦を生じるあらゆるものに応用が可能。また、新たな製品を作る必要がなく、現在流通している人工関節に「ナノ加工」を施せばよく、短時間で実用可能になります。

「現在、人工関節置換の手術を受けても約20年後には再手術が待っています。人工関節の寿命が倍になれば、一度手術すれば長期間しなくて済みます」と中西教授。「企業と技術を共有し、さらに磨き上げて行くうえで、大切なものは信用。実績を積み、信用を得るためにも、特許申請には大きな意味があります」。

※1マイクロメートル=1000分の1ミリメートル、1ナノメートル=10億分の1メートル

水質や大気の汚染に一撃！ 泡や霧の力で環境保全

大学院自然科学研究科先端機械システム講座の佐田富道雄教授が開発したマイクロバブル（微細気泡）を発生する「多流体混合器」が、水質浄化や環境保全の面から目覚ましい進化を遂げています。

「多流体混合器」は、水などの液体に空気を溶け込ませる能力が飛躍的に高く、金魚や熱帯魚の水槽などで使われるエアポンプの約10倍にも相当します。しかもエネルギー消費が少なく、太陽電池でも動かすことができるため、海洋や河川などあらゆるシーンで活躍することが可能です。さらに簡単な構造なので、低価格で実用化できるのも多流体混合器の特徴です。県内外の多くの企業と協力して、環境改善の切り札として実用化の研究を進めています。



マイクロバブルやミスト等を作る「多流体混合器」は手のひらサイズだが、その力は大きい



海に浮かべたフィルム状太陽電池（富士電機システムズ製）を電源として水質浄化装置を始動。マイクロバブルが湧きあがった瞬間、周囲から歓声が上がった＝上天草市松島で撮影

ミスト（霧）やエマルジョン（乳剤状の混合体）を作ることでも可能で、海底に堆積したヘドロや土砂を浮き上げらせて排除する「バブルジェット式エアリフトポンプ」も開発。また、煙突から排出される煙の浄化や畜舎などの気化冷却・除菌・消臭などにも取り組んでいます。

そのほか、好気性微生物の働きを生かした水質浄化資材に、「多流体混合器」から豊富な空気を送り込むことで、効率的な水質浄化を実現しました。大学と企業が一つになって、環境にやさしい新たな技術が生まれています。



マイクロバブルの可能性は無限大

知的財産を社会へ

熊本大学イノベーション推進機構

産業と大学をつなぐイノベーション推進機構って？

熊本大学で生まれた研究成果や知的財産が、社会で広く活用されているこ



熊本大学の「知」が詰まった「熊本大学研究シーズ集」は、イノベーション推進機構のWebサイトにも掲載しています。産学官連携に関することは、イノベーション推進機構へご相談ください。

URL <http://kico.kumamoto-u.ac.jp/> E-mail: liaison@jimu.kumamoto-u.ac.jp
Tel.096-342-3209 Fax.096-342-3239

とはご存じですか。2008年4月、

大学の知的財産を管理運営し、有効活用するために設立されたのが、「熊本大学イノベーション推進機構（以下『KICO』）」です。「KICO」

は、大学で行われているすべての研究・実績の把握に努め、企業・団体などが持つ課題を解決したり、研究者に対し国の公募事業への提案を呼び掛けるなど、社会で知的財産が有効活用できるよう、外部とのパイプ役を担っています。

「KICO」は、知的財産部門、産学官地域連携部門、グローバル化推進部門およびイノベーション推進人材育成センターからなり、①熊本大学の知的・人的・物的資源を最大限に活用したイノベーション創出のための産学官連携の促進、②国際的に優れた特許の創出と国際競争力につながる知

的財産の活用、③地域における技術開発・技術教育の振興、ベンチャー企業の起業家育成及び起業化支援、④これらに係る高度な人材育成を目的に掲げています。

知的財産が活用されることで の社会や大学へのメリット

「国立大学の法人化に伴い、国からの交付金が毎年減っています。研究者によりよい研究環境で研究活動を行ってもらうためには、大学自身が研究費用を獲得する必要性が高まっています」と語るのは、イノベーション推進機構知的財産推進員の古家達也さん。「KICO」では、国の公募事業の研究テーマと研究者の技術シーズをすり合わせ、各研究者に対して積極的に公募への提案を呼びかけています。

また、企業や団体との共同・受託研究も積極的に推進。企業側に大学の保有する知的財産を紹介し、企業が抱える課題と大学が保有する知的財産のマッチングを図っています。

大学発！ 未来の熊本を支える 潮流をつくる

「企業の活力のために、大学の研究

や技術を気軽に活用していただき、地域の活性化につながれば。また、大学の研究者や学生が企業に関わることで、学生が企業の実情をつかみ、学んだ技術を実際に生かせるチャンスを得るというメリットもある」と語るのは、同機構産学官地域連携部門長の大串涉教授。またより多くの企業に、大学との共同・受託研究を活用してもらうために、昨年「中小企業向けトライアル支援事業」を創設。地域活性化に寄与する共同研究や受託研究に取り組み研究室に、支援金を出すことで研究をサポートしています。

東京、関西にも拠点を置き、九州のみならず、関東、関西、さらには国際的な連携も視野に入れていと語る大串教授。「時代の流れにキャッチアップした共同、受託研究が増えることで、地球の未来を創造するような大きな流れにつながるかもしれない」と語り



『大学の活動が地域の活性化につながる事が大切。知的財産を研究に終わらせずに、社会へ還元していきたい』と語る大串教授

産業界に移転された、熊本大学の研究成果 (平成14年11月～平成22年9月現在・移転順)

代表発明者・所属	発明の名称	代表発明者・所属	発明の名称
村山 伸樹 大学院自然科学研究科(工)	運動機能評価システム	城戸 裕 生命資源研究・支援センター	アクリジン誘導体
村山 伸樹 大学院自然科学研究科(工)	運動機能評価方法	城戸 裕 生命資源研究・支援センター	2H-ピロロ[3, 4-b]キノリン誘導体
佐田富 道雄 大学院自然科学研究科(工)	マイクロバブル製造装置	末吉 敏則 大学院自然科学研究科(工)	並列演算装置
浅川 牧夫 教育学部*	粉体殺菌装置および方法	西田 稔 大学院自然科学研究科(工)*	Ti合金バネ
平山 忠一 大学院自然科学研究科(工)*	口内エンドトキシンの吸着剤	大川原 正 大学院医学薬学研究部(薬)*	セミカルバジド誘導体を含むフリーラジカル消去剤
甲斐 広文 大学院生命科学研究所(薬)	アミロイドーシスの予防及び治療のための医薬	秋山 秀典 大学院自然科学研究科(工)	パルスパワーを用いた液体および液体食品の殺菌方法
木田 建次 大学院自然科学研究科(工)	醸造酢及びその製造法	連川 貞弘 大学院自然科学研究科(工)	鋼材の材質制御方法
阪口 薫雄 大学院生命科学研究所(医)	抗HIV抗体	竹屋 元裕 大学院生命科学研究所(医)	心筋障害抑制剤
岩井 善太 大学院自然科学研究科(工)*	自律飛行カイトブレースシステムおよびカイトブレース制御装置	佐田富 道雄 大学院自然科学研究科(工)	流体混合器および流体混合方法
阪口 薫雄 大学院生命科学研究所(医)	G ANP蛋白質	伊東 繁 衝撃・極限環境研究センター*	衝撃波処理方法および処理装置
阪口 薫雄 大学院生命科学研究所(医)	G ANP結合性タンパク質	伊東 繁 衝撃・極限環境研究センター*	衝撃波処理装置
井村 英昭 大学院自然科学研究科(工)	ヒートパイプ	西村 泰治 大学院生命科学研究所(医)	CDH3ペプチド及びこれを含む薬剤
水田 博志 大学院生命科学研究所(医)	骨自動延長器	西村 泰治 大学院生命科学研究所(医)	CDCA1ペプチド及びこれを含む薬剤
斉藤 寿仁 大学院自然科学研究科(理)	タンパク質ポリマー及びその製造方法	西村 泰治 大学院生命科学研究所(医)	FOXMI1ペプチドおよびこれを含む薬剤
西村 泰治 大学院生命科学研究所(医)	悪性黒色腫(メラノーマ)の診断剤	西村 泰治 大学院生命科学研究所(医)	HLA-A2陽性者用glypican-3由来癌拒絶抗原ペプチド及びこれを含む医薬
浅川 牧夫 教育学部*	皮膚深部冷却剤	西村 泰治 大学院生命科学研究所(医)	癌の免疫療法に有用なRAB6K1FL抗原およびペプチド
佐田富 道雄 大学院自然科学研究科(工)	バブル噴流式エアリフトポンプ	末吉 敏則 大学院自然科学研究科(工)	論理回路およびその接続構成方法
古川 憲治 大学院自然科学研究科(工)	アンモニア含有廃水の処理方法	西村 泰治 大学院生命科学研究所(医)	SPARC由来の癌拒絶抗原ペプチド及びこれを含む医薬
中尾 光善 発生医学研究所	腫瘍の診断剤	中尾 光善 発生医学研究所	THERAPEUTIC AGENT CANCER
里中 忍 大学院自然科学研究科(工)	スポット溶接部の超音波検査方法	河村 能人 大学院自然科学研究科(工)	医療用インプラント
渡邊 純二 大学院自然科学研究科(工)*	SiCおよびダイヤモンド単結晶の紫外線照射による研磨方法及び研磨装置	矢原 正治 大学院生命科学研究所(薬)	プロボリスの水への可溶化方法
山村 研一 生命資源研究・支援センター	Tube-down-1遺伝子ノックアウト動物	中面 哲也 大学院医学薬学研究部(医)*	癌抗原及びその利用
平山 忠一 大学院自然科学研究科(工)*	口腔内エンドトキシンの吸着除去剤	西村 泰治 大学院生命科学研究所(医)	HLA-A2陽性者用HSP105由来癌拒絶抗原ペプチド及びこれを含む医薬
大野 恭秀 大学院自然科学研究科(工)*	Snめっき方法	浅川 牧夫 教育学部*	海苔発酵食品及びその製造方法
大野 恭秀 大学院自然科学研究科(工)*	使用時のウイスカの発生を防止した電子部品用金属材料の製造方法	佐藤 圭創 大学院医学薬学研究部(薬)*	電子スピン共鳴測定用試料溶液及びその乾固物、並びにそれらを用いた測定方法
大野 恭秀 大学院自然科学研究科(工)*	ウイスカの発生を防止した電子部品用金属材料	竹屋 元裕 大学院生命科学研究所(医)	ハイブリドーマ細胞VHL40
今井 輝子 薬学部	Caco-2細胞を用いたエステル含有化合物の消化管吸収性の予測方法	池田 剛 大学院生命科学研究所(薬)	フェニルプロパノイド化合物
中潟 直己 生命資源研究・支援センター	新規精子前培養培地	浅川 牧夫 教育学部*	海苔を用いた糖尿病治療剤
中潟 直己 生命資源研究・支援センター	精子凍結保存剤	西村 泰治 大学院生命科学研究所(医)	癌の免疫療法に有用なIMP3抗原およびペプチド
栗原 清二 大学院自然科学研究科(工)	感光性樹脂組成物	西村 泰治 大学院生命科学研究所(医)	癌の免疫療法に有用なCDC45L抗原およびペプチド
末吉 敏則 大学院自然科学研究科(工)	リコンフィギャラブルロジックブロック、リコンフィギャラブルロジックブロックを備えるプログラマブル論理回路装置、および、リコンフィギャラブルロジックブロックの構成方法	内村 圭一 大学院自然科学研究科(工)	ワーク搬送システム、経路設定方法及び経路設定プログラム
野原 稔弘 大学院医学薬学研究部(薬)*	ゲニポシド酸誘導体	水島 徹 大学院生命科学研究所(薬)	熱ショックタンパク質誘導剤、およびこれを含む皮膚外用剤、食品、並びに、熱ショックタンパク質誘導剤の製造方法
野原 稔弘 大学院医学薬学研究部(薬)*	杜仲葉水抽出物の分画物、および当該分画物を含む抗肥満剤	岩井 善太 大学院自然科学研究科(工)*	制御方法および制御装置
渡邊 純二 大学院自然科学研究科(工)*	ダイヤモンド単結晶バイトの研磨技術と装置	鳥居 修一 大学院自然科学研究科(工)	有機質系廃液の燃焼ノズル装置、その燃焼処理方法およびエネルギー発生システム
		木田 建次 大学院自然科学研究科(工)	アルコール生産システムおよびアルコール生産方法

*は旧所属 ※上記研究成果には、1案件で複数の企業へ技術移転しているものも含まれます

研究室探訪

Laboratory Exploration

植物多様性学 研究グループ

理学部

理学科 生物環境プログラム

大学院自然科学研究科

理学専攻 生命科学講座

「植物多様性学研究グループ」の研究は、まずフィールドワークから始まります。おのおのが月に数回、植物採集や観察に野山へ出掛けてサンプルを持ち帰り、標本を作り、細胞を調べるなど、地道な作業を積み上げていく学生たち。スマイルの研究をしている諫本泰明さん(理学部4年生)は、「屋内での研究だけでなく、フィールドワークに出掛けて草花に触れることも楽しい」と話します。

また、3つの研究室から成り立っているこのグループでは、週に一度、共同でゼミを行い意見交換を行っています。お互いの研究対象や解析方法を知ることによって、多様な植物の実体について知識を深めているのです。

地球上の生物は、その形態や成分、生態的特徴が似たもの同士で分けられ、体系付けられています。そのうち「種」は生物分類上の基本的な単位です。ここでは、「種」の判別を行うため、植物の遺伝子を単離してその構造を決定する、分子遺伝学の技術を用いています。

今年、阿蘇郡小国町で採集したメシダ類を調べたところ、新種のものだと分かり、「キタサトイヌワラビ」と命名されました。過去には、このグループが発見したことで、絶滅危惧種としてレッドデータブックに掲載されたものもあるのだとか。

「同じ植物に見えても、詳しく調べてみると、全く新しい遺伝子構造を持つ貴重な『種』だった、ということもありました。身近な植物でも、分かっているようで分かっていないことが多いんですよ」と語る高宮教授。身近にあるからこそ、知らないうちに伐採や採集が行われ、絶滅してしまう可能性もあるといいます。

彼らの目標は、多くの「種」を発見すること。そして、環境に適応するためにそれぞれがどのような進化を遂げてきたのかを、系統立てて整理・分析することです。

植物を科学的な視点から追究する「植物多様性学研究グループ」。これからも、まだ誰も知らなかった“種の謎”を解き明かしていくことでしょう。

気候や地質などの環境に順応しながら進化を遂げてきた植物。

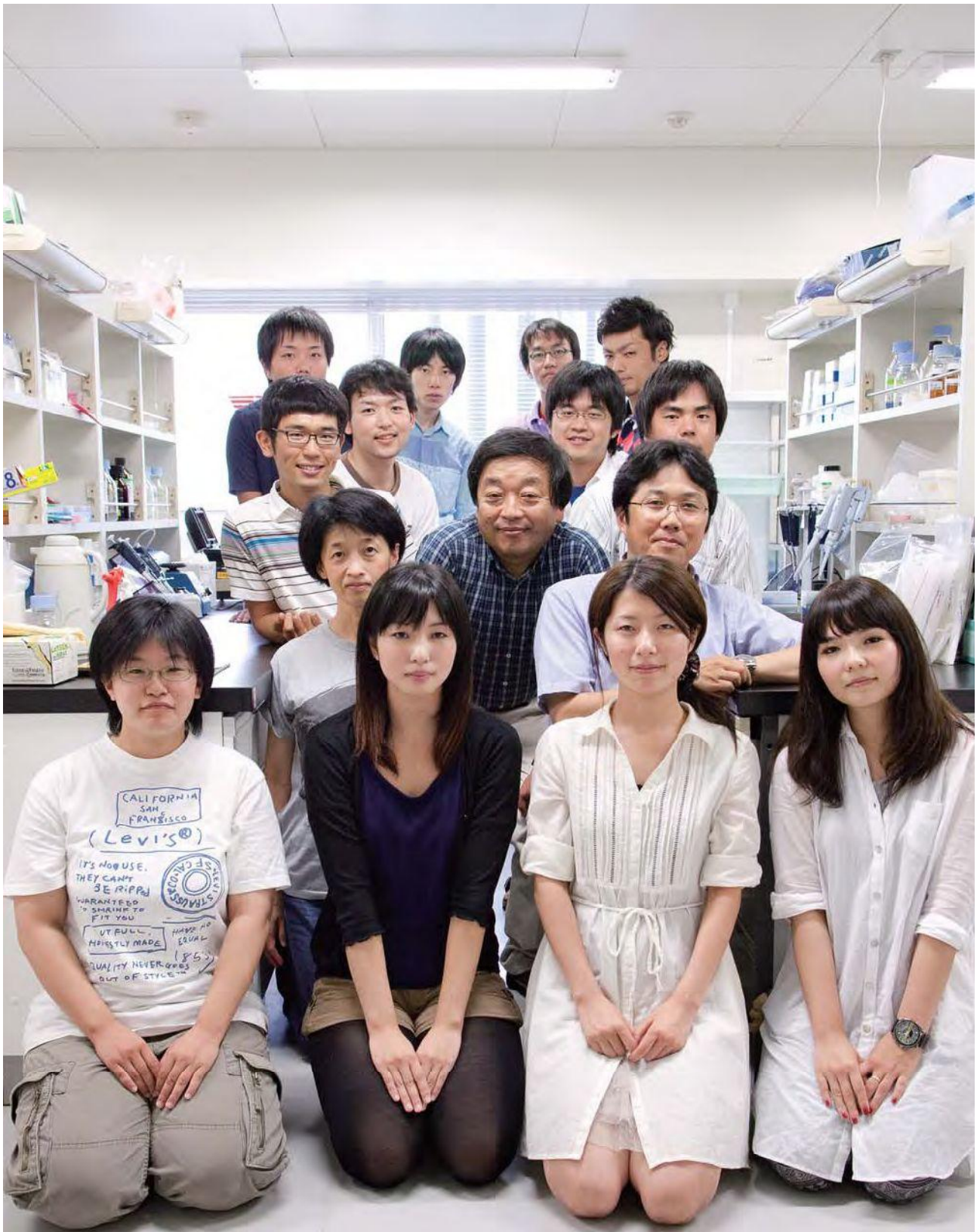
その生態や分化、地域分布などを研究しているのが「植物多様性学研究グループ」です。

シダ植物、被子植物、高山植物と研究対象の異なる3つの研究室が互いに学び、刺激し合う、活気にあふれる教室を訪ねました。



- 採集した植物を標本にして、日時や場所によって細かく整理。これも「種」を見分けるための大切な判断材料の一つ
- 実験室では、それぞれが目的に応じた手段で研究を進めている
- シダ植物の胞子から前葉体を発芽させ、人工的に異種間の掛け合わせ実験を行っている
- 阿蘇の野山は貴重な植物の宝庫。絶滅危惧種も数多い





フィールドワークと科学研究で “植物の種^{しゅ}”の謎を解き明かす



高宮正之教授(中央)、副島
顕子教授(中央左)、藤井紀行准
教授(中央右)をはじめ、大学
院生9名、理学部4年生5名計
17名のグループ

熊大の総合効果は1000億円超

地域経済の一翼を担う熊本大学

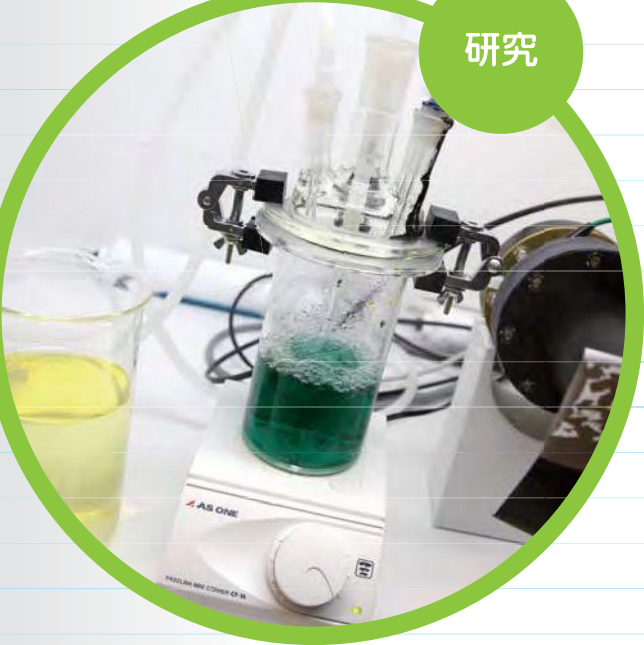
消費



コンベンション



研究



国立大学に求められる役割の一つに、「地域社会への貢献」が挙げられます。特集Iで紹介した「知的財産の活用」も地域貢献の重要な取り組みですが、大学が地域に直接あるいは間接的に及ぼす経済効果も大きなものがあります。総額1000億円を計算した熊本大学政策創造研究教育センター・円山琢也准教授に話を聞きました。

大学から地域への
経済波及を探る

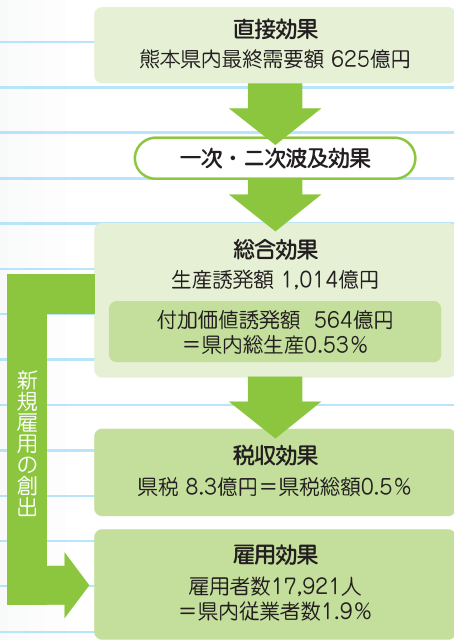
さまざまな教育・研究活動を行う熊本大学が立地することによって、多様な社会的・経済的効果を地域にもたらしています。教育効果など数値では計りにくいものもありますが、地域における経済効果を分析することで、本学がどれほど地域貢献を果たしているかを知ることが可能です。また、算出したデータから本学の経済効果の特色を探ることができます。

産業が生産・サービスを行うことで、売り上げが増加するなどの「直接効果」のほか、その生産の原材料を扱う産業の需要が増加するなどの「波及効果」が生じます。これら経済効果は、「産業連関分析」という手法で調べることが可能です。今回の分析では、一般に公開されている「熊本県産業連関表」や「熊本大学財務諸表」などの統



地域にとって「地産地消」が大きな経済効果をもたらす、と語る円山琢也准教授。経済効果を知ることが、地元消費に対する意識の向上にもつながる

図：熊本大学の経済波及効果のフロー



熊本大学の立地による経済効果については、次のように分類されます。

地域経済へ及ぼす連鎖的な影響

計データを利用しています。例えば、「学会に訪れる研究者の経済効果」を試算する場合、宿泊費や飲食代など、具体的な項目と予算、そして人数を想定して、掛け合わせていきます。統計では数値の微妙なズレはありますので、最終結果の「数字の限界」を念頭に置く必要があります。

また、「直接効果」と「波及効果」を合計した「総合効果」が「直接効果」の何倍に当たるかも重要なポイントで、数値が大きいほど地域における経済効果が高いことが分かります。

熊本大学の存在による直接効果

a 教育・研究活動による効果

大学が教育や研究のために経費を投ずることにより生まれる効果

b 教職員・学生の消費による効果

教職員やその家族、学生が地域で消費活動を行うことにより生まれる効果

c そのほか

- ・学会などへの来訪者による消費
- ・病院への外来患者・見舞客による消費
- ・入試関連・五高記念館来訪者による効果

d 施設整備による効果

施設の新築や修繕のための投資により生まれる効果

これら「直接効果」の生産額などと

そこから連鎖的に派生する他産業の生産額を合わせたものが「生産誘発額」であり、その数値で「総合効果」を計ります。また「総合効果」からは税収効果や新規雇用の創出などが派生します。(図「熊本大学の経済波及効果」参照)



施設

果のワークフロー」参照)

「産業連関分析」による熊本大学の地域への経済効果は、1014億円ということが明らかになりました。(表「熊本大学の立地による地域への経済効果」参照)

消費により大きく波及効果が現れる不動産や商業などの業種や対事業所・個人サービス・運輸などの業種に多額の生産誘発効果をもたらされていることが分かりました。

また、熊本大学が県内に及ぼす「総合効果」は「直接効果」の1.62倍で、高い経済効果をもたら

表：熊本大学の立地による地域への経済効果

経済効果把握の視点	直接効果	総合効果 (生産誘発額)
a.教育・研究活動による効果 大学が教育や研究のために経費を投ずることにより生まれる効果	205億円	約341億円
b.教職員・学生の消費による効果*1 教職員やその家族、学生が地域で消費活動を行うことにより生まれる効果	274億円	約428億円
c.その他の活動による効果 附属病院外来患者や学会来訪者、受験生、五高記念館来訪者など、大学関連の施設や催しへの来訪者が地域で消費活動を行うことにより生まれる効果	89億円	約149億円
d.施設整備による効果 施設の築新築や修繕のための投資により生まれる効果	57億円	約95億円
熊本大学の県内における経済効果は、直接効果の1.62倍		熊本大学の直接的経済効果 625億円
		県内生産誘発 1,014億円

*1 熊本大学の学生数・教職員数
学生数 計10,252人、教職員数 2,037人(平成21年5月1日現在)
出典/円山 琢也:熊本大学が地域に及ぼす経済効果:産業連関分析による試算例。熊本大学政策研究, Vol.1, pp. 53-68, 2010.

らしています。項目別にみると、「学会などの開催効果」は1.75倍もの「波及効果」を示し、最も高い数値となりました。また、大学附属病院を有していることから派生する「波及効果」も高く、これらは熊本大学の経済効果の特徴の一つと言えます。

大学の主な役割には「教育・研究・地域貢献」という三つの柱があります。教育や研究の効果を数値で計ることは容易ではありませんが、地域貢献の一部は経済効果という視点で明らかにすることが可能です。三つの柱を見据えた大学本来の取り組みで、地域へと知財を還元していくことが重要です。



水の都 熊本から発信!

世界の地下水をマネジメントする

「環境リーダー育成プログラム」

熊本大学では、今年10月1日から「熊本大学地下水環境リーダー育成プログラム」（通称「GelK（ジェルク）」）が始動します。これは、大学院自然科学研究科複合新領域科学専攻が中心となり、日本一の地下水都市である熊本の特性を生かした水資源の保全や、管理にかかわる教育を体系的に行うもの。アジアやアフリカなど、水資源に恵まれない、あるいは水環境問題が進行している国々の学生に広く門戸を開くことで、国際的人材を育成しようという画期的な取り組みです。



※「GelK（ジェルク）」はGroundwater Environmental Leader Program of Kumamoto Univ.の略

世界的に地下水の需要が高まる中 熊本大学ができること

「GelK」は、文部科学省が公募した「平成22年度科学技術振興調整費アジア・アフリカ科学技術協力」の「戦略的環境リーダー育成拠点形成」に採択されたプログラム。最先端の地下水の理学と

工学、法的管理や共生学、経営工学等を、講義や実習・実験、インターシップなどを通じて、国際的な環境リーダーを育成していきます。大学院博士後期課程においてプログラムを修了した学生には、「熊本大学地下水環境リーダー」の称号が与えられます。



このようなプログラムが設けられた背景には、アジア・アフリカなどの発展途上

国で、地下水への依存が急増していることが挙げられます。地球の表面を流れる川や湖などの約750倍の水量を蓄えるといわれる地下水。質が良く、温度も一定であることから、農業や工業用水としての需要が高まっています。しかし、経済活動を重視するあまり、水資源の保全に対する意識が低く、水環境が悪化しているというのが途上国の実情です。「本学には、母国の水環境をテーマとして研究に取り組んでいる留学生が多数おり、研究の中でそれぞれの国の抱える課題が浮かび上がったことで、地下水に関する教育の重要性を痛感しました」と、プログラムのリーダーを務める小池克明教授は語ります。

地下水都市にある熊本大学

世界の地下水教育の中枢を目指す

「GelK」の中心となるのは、大学院自然科学研究科をはじめ、教育学部



プログラムのリーダーを務める大学院自然科学研究科複合新領域科学専攻の小池克明教授。「さまざまな学部から集まったプログラムなので、横のつながりができ、これまでにない多角的に学べるプログラムになっています」

文学部の学内教員18名や、国内外の研究者など。さまざまな分野の教員で構成されていることから、多角的に学べるのが特長です。また、熊本市は日本一の地下水都市であることから、水資源の循環や地下水の実習・研究に最適な環境が整っています。行政が、かん養から流出までの地下水流動全体を踏まえた先進的地下水管理に着手しており、自然の摂理だけでなく行政の取り組みなども体系的に学ぶことができます。このように環境に恵まれた熊本で、行政やさまざまな学部と連携した学際的的教育を行い、世界の地下水教育の中枢を目指すプログラムが「GelK」です。

初年度の募集は、留学生および国内の学生15名程度を見込んでいます。プログラムはすべて英語で行われ、内容は地下水系に関する基礎から、実習・実験、さらには技術を経済的価値あるものとして戦略を立て、経営・管理する「技術マネジメント」・MOT (Management Of Technology) 。

International exchange Report

国際交流レポート / 平成22年6月～22年8月

6月6日 / 中国・哈爾濱工業大学の90周年記念式典・国際学長フォーラム参加

本学と交流協定を締結している哈爾濱工業大学の創立90周年記念式典・国際学長フォーラムに、本学から谷口学長が出席しました。



20日 / カリフォルニア州立大学サクラメント校政策協働センターを訪問(6月22日まで)

法学部の伊藤洋典教授らがセンターを訪問し、市民参加による紛争解決に関する研究会に出席後、現地のダム問題に関するインタビュー調査などを行いました。



28日 / TOEFL対策セミナーを開催

交流協定校への交換留学など、本学学生の海外派遣を推進する目的で、テンブル大学ジャパンキャンパス教養学部の川手ミヤジエフスカ恩(めぐみ)先生を招き、TOEFL-iBTについての効果的な学習方法を紹介するTOEFL対策セミナーを開催しました。



7月20日 / 熊本大学インドネシアITSオフィスを開所

本学協定校であるインドネシア・スラバヤ工科大学(ITS)内に、本学のリエゾンオフィスとして「熊本大学インドネシアITSオフィス」を設置し、ITSにおいて開所式を開催しました。



21日 / 海外渡航前オリエンテーションを開催

本学では学生の海外派遣時における危機管理体制の強化のため、「留学生危機管理制度通称：(OSSMA)」を7月1日から導入。夏休み期間中に海外へ渡航する学生を対象に、講師を招いて危機管理に関するオリエンテーションを開催しました。

22日 / 中国・上海師範大学人文学院 蘇智良院長来学

26日 / みなまた環境マイスター養成プログラムの公開講座である「第10回イブニングセミナー」を開催

水俣市民・熊本大学関係22名の参加があり、講演後は活発な質疑応答がなされました。

熊本大学サマープログラム2010を実施(8月6日まで)

中国、台湾、韓国の協定校に在籍し、日本語学習経験のある学部学生を対象としたサマープログラムを実施。26名が参加しました。



8月21日 / 熊本大学薬学部平成22年度教育GP ラオス派遣プログラムを実施(8月28日まで)

薬学部の学生4名と引率教員1名の計5名が、「エコファーマを担う薬学人育成プログラム」の一環としてラオスにおいて研修を行い、ラオス国立大学の学生との交流や保健大臣へ表敬訪問、病院薬剤部の見学などを行いました。



25日 / 熊本大学・ソウル市立大学(韓国)・カルガリー大学(カナダ) 共同セミナーを開催(8月27日まで)

「交通・防災・景観・健康・まちづくり」という分野横断型の研究会で、国内外から28件の研究発表が行われました。



「GeIK」の前身となる「地域水循環機構に基づく持続的水資源利用のフロンティア研究」では、カメルーンに向き現地研究者とともに水質調査を行うなど、積極的な国際活動を行ってきた

国内外の企業で共同研究に取り組みイン
ターシップ、そして行政指導など、地
下水を軸とした厚みのあるカリキュラム
となっています。例えば、山手で降った
雨が地下に染み込んで熊本市内で湧き出
るまでに、水はけの良い地質と悪い地質
とでは時間が異なります。また、土地に
よって水質も異なります。それを把握し、
県や市などの行政とともに地下水の存在
する場所や流れを明らかにして地下水の
コントロールを行い、水量調整・管理を
行っていくます。「水の成分分析や、水
資源が枯渇しないような効率的な利用法な
ど、地下水に関する総合的なマネジメン

ト技術を身に付け、管理、コントロール
できるような環境リーダーを育成した
い」と小池教授。授業に加え、国際会議
やシンポジウムなどにも積極的に参加で
きるようなサポート体制も充実。「地下
水環境に恵まれた熊本にある熊本大学が、
世界の地下水教育を牽引していけるよう
に充実させたい。本学で学んだ環境リー
ダーが、母国や日本の地下水保全・管理
など、国際的な貢献をしてくれればうれ
しい」と、小池教授は意欲満々です。

卒業生ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、国内外で活躍する先輩たちの
これまでの歩みや苦労、そして喜び、楽しみなどを通して
精励するその姿をご紹介します。

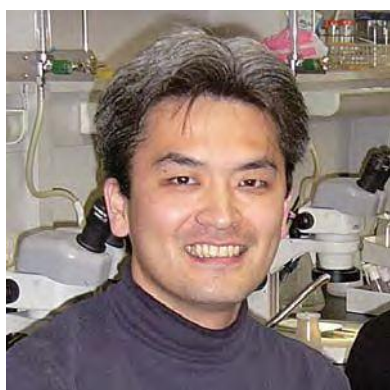


西 智世 Tomoyo NISHI

熊本市立西原中学校（熊本） 勤務
教育学部中学校教員養成課程国語専攻・平成20年度卒



就職して今年で2年目となりました。現在は熊本市の西原中学校で、2年生のクラス担任と教科担任をしています。人間を相手にする職業なので、なかなか頭で考えるようにうまくはいかず、悩みの尽きない日々を過ごしています。しかしその分、仕事に対するやりがいや、自分自身の成長を感じることができています。何より、子どもたちの笑顔はかわいいです。大学時代にゼミやサークル、アルバイトなどを通してできた人とのつながりが、今の自分を支えてくれているように感じます。皆さんも、学生のうちに積極的にさまざまな人と出会い、そのつながりを大切にしてほしいと思います。夢に向かって頑張ってください。



千原 崇裕 Takahiro CHIHARA

東京大学薬学部遺伝学教室（東京） 勤務
薬学部薬科学科・平成7年度卒／大学院薬学研究科博士前期課程・平成9年度修了



学部1～3年時は、体育会バドミントン部で体育館と部室の往復ばかり。4年から修士2年は、研究の魅力に取りつかれて研究室に入り浸り。好きなことばかりやっていた熊大時代は、わたしにとっての原点です。その後は国内外を転々とし、現在は東京大学で「ショウジョウバエ脳を用いた神経回路の研究」を行っています。脳内の無数の神経細胞がどのようにして特定の神経回路を作るのか、その基本原理を明らかにするのが目標です。世界中の一流研究者たちとの競合は厳しいですが、サイエンスの発展につながることを信じて日々研究・教育に精進しています。野望は、“小学校理科の教科書に新たな1ページを！”です。



宮本 和彦 Kazuhiko MIYAMOTO

熊本市役所 熊本駅周辺整備事務所（熊本） 勤務
工学部知能生産システム工学科・平成11年度卒



機械系学科出身で卒論の内容が半導体の精密加工だったわたしが、熊本市役所の土木職として勤務し、10年余りが過ぎました。現在の所属部署では、九州新幹線全線開業に向けて熊本駅周辺の開発に携わっています。わたしの主な担当業務は新幹線駅の駅前広場整備で、このような事業に携わることができ、非常に貴重な体験だと感じています。学生時代の専攻とは全く別分野への就職でしたが、どうにかやってこられたのは、学生時代に学んだ多くのことが直接・間接的に役に立ったからだと思います。勉学から遊びまで、学生時代の経験は非常に大きな財産になります。悔いの残らないような学生生活を送ってください。



佐々 利明 Toshiharu SASSA



社会福祉法人 恩賜財団 済生会みすみ病院（熊本） 勤務
医学部医学科・平成12年度卒

熊本大学を卒業してちょうど10年、これまで県内6病院での勤務を経験しました。

社会に出ると、予想外の出来事が待ち受けています。その局面でいかに自分で決断し行動するかが、その後の人生を大きく左右します。医療に携わっていると、患者の人生・生死に影響を及ぼす判断を担うことがあります。相手の気持ちや立場への十分な理解が大切ですが、そのためには自分がそれまでどのような経験をしてきたかということも大きく影響してくると思います。

学生時代に苦勞して一生懸命取り組んだ経験は、とても貴重な判断材料です。学生の皆さんには、社会に出て糧となるようなさまざまなことにチャレンジしてほしいと思います。



小野 宏明 Hiroaki ONO



熊本日日新聞社編集局写真部（熊本） 勤務
西南学院大学法学部法律学科・平成7年度卒 / 熊本大学大学院法学研究科法律学専攻修士課程・平成9年度修了

「100行の記事よりも、1枚の写真」という言葉を念頭に、日々現場を走り回っています。報道写真といっても事件、事故、スポーツなど撮影内容は多様。撮り直しがきかない「一度きり」の現場ばかりです。身体に重度のハンディがある女の子を取材した時のこと。不自由な手でパソコンを使い、家族への愛情を文章にする女の子が、カメラに向かってふっと笑顔を見せてくれました。「なかなか笑顔を見せないんですが、よほどうれしかったんですね」とお母さん。記者冥利に尽きる一言でした。何事にも真摯に取り組めば、道は開けます。在学中に得た経験を、今後も現場で生かしていきたいと思っています。



馬場 良子 Ryoko BABA



産業医科大学医学部（福岡） 勤務
理学部生物科学科・平成6年度卒

わたしは中村学園大学を経て、平成19年4月より現在の職場に勤務し、医学教育と研究に携わっています。卒業後すぐに自分の専攻と違う分野の教員になったため、学生時代に専門以外も広く学び、多くの人の話を聞いて、いろんな経験をしておけばよかったと後悔することが多々ありました。

人生には予期しない出来事もたくさんありますが、多くの方々に支えられ、良い影響や刺激を受けて、現在の自分があることに感謝して日々を過ごしています。皆さんが有意義な学生生活を送られ、その中で、将来まで続く良い人間関係を築かれることを願っています。



嶋原 一修 Tadasuke SHIMABARA



熊本国税局 総務部 事務管理課（熊本） 勤務
文学部歴史学科・平成14年度卒 / 大学院文学研究科歴史学専攻・平成16年度修了

わたしは現在、熊本市内の国税局に勤務しています。大学の前を通って通勤していますが、キャンパスや周辺の街並みを見ると、楽しかった学生時代を思い出します。

わたしが税務行政について本格的に学んだのは、就職してから。しかも実際の現場では、法律などに関する知識の量はもちろんですが、むしろそれを踏まえて相手と対話し、課題の解決を図るためのコミュニケーション能力がより重要で、自分の力量や経験の無さを痛感することが何度もありました。大学はこの力を培うのに非常に良い環境です。充実した学生生活を送るためにも、多くの人のつながりを積極的に築き、さまざまな経験を積んでほしいと思います。

3カ所目の海外オフィス「熊本大学インドネシアITSオフィス」を開所



本学ではこれまでに、国際交流ネットワーク強化の一環として「中国上海オフィス(平成17年度)」、「韓国KAISTオフィス(平成18年度)」を設置していますが、このたび協定校であるインドネシア・スラバヤ工科大学(ITS)内に「熊本大学インドネシアITSオフィス」を開所しました。ITSは、本学と共催で行った国際フォーラムや学生交流などを通じてつながりを強化してきた大学です。7月20日の開所式には、谷口学長やITS学長、在スラバヤ総領事など多数の関係者が出席しました。

本オフィスは、インドネシア人の現地スタッフが本学とITSとの学術研究協力強化、ITSの学生・教職員に対する日本と熊本大学に関する情報提供などの業務にあたります。これにより、本学とインドネシアとのさらなる関係強化が期待されます。

未来の熊大生が参加 オープンキャンパス



本学への入学を目指す高校生を対象としたオープンキャンパスが8月10日に開催されました。

黒髪、本荘・九品寺、大江の3カ所のキャンパスで同時開催された本イベントには、今年も多くの高中生やその保護者が参加。各学部やサークルの紹介、模擬授業など大学生活を実体験できる催しに、積極的に参加する姿が見られました。

夏目漱石を学ぶ「熊本大学サマースクール」を開催



本学で初めての試みである「第1回熊本大学サマースクール」が、8月23日から27日の5日間にわたり開催されました。これは、全国各地から参加者を募り、滞在型の公開講座として本学で学んでいただく企画です。第1回は「五高記念館で漱石を学ぶ」と題して、かつて夏目漱石が教鞭をとった旧制第五高等学校(現五高記念館)を会場に開催。本学研究者らによる文学講義が行われました。また、夏目漱石旧居や玉名市小天の「草枕交流館」での講義、「二百十日」の舞台となった阿蘇で漱石の足跡をたどるなど、多彩で充実したプログラムとなりました。

まちづくりを共同で くまもと都市戦略会議



本学と熊本県、市が共同でまちづくりに取り組む「くまもと都市戦略会議」の初会合が、8月24日に本学で行われました。2011(平成23)年3月の九州新幹線全線開業や、熊本市の政令指定都市昇格などを見据え、地域課題の解決のために本学長の呼びかけで始められた取り組みです。

熊本の良さを世界へ向けてアピールしようと、「日本を代表するコンベンション都市づくり」「留学生を中心とした学園都市づくり」「熊本駅と中心市街地のにぎわい創出」の3つを柱に、今後ワーキンググループを設置して、熊本の将来像実現へ向けて具体的な検討が進められます。

熊大医学部附属病院 東病棟が開所しました



平成19年11月に着工し、約2年3か月をかけて建設工事が行われた医学部附属病院東病棟が、平成22年2月に竣工。9月4日に完成記念式典が挙行されました。

東病棟の建設には約113億円が投じられており、平成14年に完成した西病棟、平成18年に完成した中央診療棟に続く、本院再開発のビッグプロジェクトです。この建設によって既存の西病棟・中央診療棟とも連結され、関連の深い部門を同階に配置することで水平方向の連絡がスムーズになりました。また、内科・外科のような診療科の垣根を越えた疾患別の横断的な診療体制が整い、本院が理念の一つとしている「患者本位の医療の実践」をより効率的に提供することが可能となりました。

テキサス大学サンアントニオ校と大学間学術交流協定を締結



9月2日および3日に、谷口学長と両角工学部長がアメリカのテキサス大学サンアントニオ校を訪問し、ロモ同校学長と大学間学術交流協定の調印が行われました。

この協定により、総合大学としての教育研究分野の広がりを生かして自然科学、人文社会科学、教育学など多数分野での交流が期待でき、学生間の相互交流の促進にもつながります。また、両大学が所在する熊本市とサンアントニオ市は1987年から姉妹都市提携を結んでいます。本交流により、同市の行政や経済団体などの都市間交流のさらなる活性化も期待できます。

第60回日本体質医学会総会市民公開講座

「健康に生きるために 一体質を考えた病気の予防」をテーマに講演会を開催します。
あなたは、自分の健康に自信がありますか？

内 容 / 「健康に生きるための栄養と食事」南 久則(熊本県立大学環境共生学部食健康科学科教授)
「甘く見ていませんか？糖尿病」河盛 隆造(順天堂大学大学院スポーツロジセンター長)
「消化器癌になりやすい体質」馬場 秀夫(大学院生命科学部消化器科学教授)

日 時 / 10月17日(日)14:00~16:00

場 所 / くまもと県民交流館パレオ パレオホール

定 員 / 300名

申込方法 / 往復ハガキ、FAX、E-mailのいずれかで申し込みください

申込先 / 〒860-8556 熊本市本荘1-1-1

熊本大学大学院生命科学部代謝内科学

Fax.096-366-8397

E-mail : jscm60@gpo.kumamoto-u.ac.jp

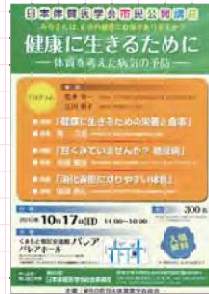
※参加費不要

【問い合わせ】

第60回日本体質医学会総会事務局

Fax.096-366-8397

E-mail : jscm60@gpo.kumamoto-u.ac.jp



熊本大学教員美術展

昨年開催し好評を博した展覧会「アートするプロフェッサー」、今年は熊本大学教員美術会と五高記念館の主催で開催。OBの先生方にもご参加いただき、約40点の作品を展示します。

日 時 / 10月1日(金)~12月6日(月)

10:00~16:00(入館は15:30まで)

場 所 / 五高記念館

※入館料不要

※休館日はWeb(「五高記念館」で検索)をご覧ください

【問い合わせ】

五高記念館 Tel.096-342-2050

命のしくみを問い続けて70年 ~体質医学研究所から発生医学 研究所までの歩み~

本九祭2010「発生研共同企画」として、体質医学研究所から発生医学研究所までの歩みと現在の研究活動を紹介します。生きた実験動物や発生標本のほか、幹細胞(ES細胞、iPS細胞)も展示します。

日 時 / 10月30日(土)・31日(日)
11:00~17:00

場 所 / 発生医学研究所1F

カンファレンス室

※事前申込不要・参加費不要

【問い合わせ】

発生医学研究所

Tel.096-373-5786

E-mail : imeg@kumamoto-u.ac.jp

URL <http://www.imeg.kumamoto-u.ac.jp/>

女子中学生・高校生のための講演会・懇談会 「聞いてみんな、見つけね! ~理系女性のロールモデル~」



理系を学ぶきっかけと学んで良かったことを、本学の理系分野の女子大学生が語ります。講演会、理系の就職事情についての話も。

日 時 / 10月23日(土)14:00~16:00

場 所 / 医学部保健学科E棟5階

対 象 / 女子中学生・高校生(保護者・先生も参加可)

申込方法 / TEL、FAX、E-mailのいずれかで申し込みください(電話は月・水・金10:00~17:00のみ受付)

申込先 / 女子中高生理系進路選択支援事業

Tel & Fax.096-342-3309

E-mail : girls@sci.kumamoto-u.ac.jp

締 切 / 10月22日(金)16:00必着

※当日申込可・参加費不要

【問い合わせ】

女子中高生理系進路選択支援事業

Tel & Fax.096-342-3309

学生および若手自治体職員による 公共政策コンペ

テーマは「みんなで考えよう!熊本の将来」。熊本や自分たちの将来について日々考えている学部生、大学院生および自治体職員が政策提言を行うフォーラムです。事前公募した学生や自治体職員が、コンペ形式でプレゼンテーションを行います。

日 時 / 10月31日(日)13:00~

場 所 / 工学部百周年記念館

対 象 / 大学院生・教職員・行政職員および興味のある一般の方

※事前申込不要・参加費不要

【問い合わせ】

政策創造研究教育センター

Tel.096-342-2044 Fax.096-342-2042

第5回ホームカミングデー



本学卒業生と在学生・教職員の相互交流のための催しです。若き日を過ごしたキャンパスに集い、母校の現在の姿を見てみませんか。大学の近況報告、記念講演をはじめとする多彩な行事と交流の場をご用意しています。

日 時 / 10月30日(土)13:00~18:30

場 所 / 工学部百周年記念館

対 象 / 昭和32・42・52・62年および平成9年3月卒業の方

※要事前申込

【問い合わせ】

運営基盤管理部総務ユニット

Tel.096-342-3116 Fax.096-342-3110

E-mail : kuma-hcd@jimmu.kumamoto-u.ac.jp

夢科学探検2010



自然科学系の各イベントを学園祭の期間中に開催。毎年多くの皆さんに好評の体験型イベントのほか、学生の作品展示なども行います。

日 時／10月30日(土)
場 所／黒髪南地区キャンパス(理学部、工学部、自然科学研究科)
対 象／小学生から一般の方
※事前申込不要・参加費不要

【問い合わせ】
夢科学探検2010事務局
理学部 藤本 Tel.096-342-3383
工学部 奥野 Tel.096-342-3635
E-mail:yume@tech.eng.kumamoto-u.ac.jp

平成22年度日本学術会議 九州・沖縄地区会議 学術講演会
「学術と大学に求められるもの～新たな知の創造と持続的発展に向けて～」

さまざまな社会的課題や人材育成のために、学術、あるいは大学に求められていることは何か、具体的な研究内容を紹介。行政のニーズ、市民からの意見も交えた集会です。

内 容／講演「チンパンジーからヒトを見る」友永 雅己(京都大学霊長類研究所准教授)
講演「AIDSの治療薬開発のアプローチ:がん等の難病治療薬の牽引車」
満屋 裕明(日本学術会議第二部会員・大学院生命科学部教授)
パネルディスカッション「地域から大学に求めるもの」～市民との対話～

日 時／11月23日(火)14:00～16:10

場 所／交通センターホテル

対 象／どなたでも可

申込方法／ハガキ、FAX、E-mailのいずれかでお申し込みください

申込先／〒860-8555 熊本市黒髪2-39-1 熊本大学マーケティング推進部研究推進ユニット
Fax.096-342-3149 E-mail:gjk-somu@jimu.kumamoto-u.ac.jp

※要事前申込・参加費不要

※詳しくはWeb(<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>)イベント情報をご覧ください

【問い合わせ】 マーケティング推進部研究推進ユニット Tel.096-342-3146

第27回熊本大学附属図書館
貴重資料展

本学に寄託されている永青文庫資料の中から、若き日の幽齋に宛てられた信長文書を中心にその魅力を紹介します。



■展示会

日 時／10月30日(土)～11月1日(月)
9:30～16:30

場 所／附属図書館自由閲覧室

■公開講演会・第5回永青文庫セミナー

日 時／10月30日(土)14:00～15:30

場 所／放送大学熊本学習センター講義室

対 象／一般・学生・教職員

※事前申込不要・参加費不要

【問い合わせ】

附属図書館 Tel.096-342-2273



数字でわかる 熊本大学 #02

教職員や学生を派遣しあう「国際交流協定校」

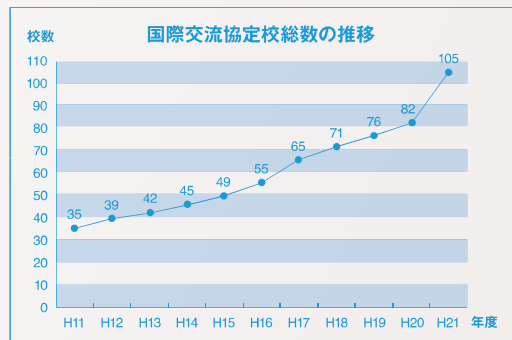
熊本大学が目指す

世界28カ国に105校! グローバルな大学の姿

熊本大学は、海外の大学・機関との間で交流協定を締結し、研究者および学生交流を行っています。1983年、中国医学科学院中国協和医科大学と、初めて医学部間の協定を結んで以来、現在では世界28カ国、105の海外大学と締結しています。特に本学が法人化された2004(平成16)年度以降は、より大幅な伸びをみせ、交流協定校の数はこの10年間で3倍に増加しています。これは法人化を機に、地域貢献を柱とする地方大学から、国際的にも貢献できるグローバルな大学として、また、国際水準の研究・技術を持つ本学がより高みを目指すために、世界各国の大学と連携する重要性が高まった結果であるといえるでしょう。

学内に設立された「国際化推進機構」では、「グローバルなアカデミック・ハブ(拠点大学)」を目指して国際社会に対応できる人材育成と、世界に開かれた知と文化の拠点形成に力を入れています。熊本大学フォーラム、海外オフィス、JICA(独立行政法人国際協力機構)との技術協力プロジェクトなどを通じて、本学の教育・研究を世界へ向けて発信し、交流を拡大してきました。

“熊本発・世界レベルの地方大学”。今後、世界を舞台に活躍する“熊大人”がますます増えそうです。



(H21.3.31現在)

放送日時
決定!

平成22年度熊本大学テレビ放送公開講座 「探検!まると熊大キャンパスライフ」

今年のテレビ放送公開講座は本学の人材育成および学生のキャンパスライフの魅力にスポットを当てます。

探検隊メンバー(TKUアナウンサー)



中原理菜さん 熊本竜太さん 後藤祐太さん

■ 放送日時 TKUテレビ熊本にて(各回)16:00~16:30放送

第1回 11月13日(土) 「女性研究者になりたい!」

第4回 12月4日(土) 「大発見や発明をしたい!」

第2回 11月20日(土) 「熱血先生になりたい!」

第5回 12月11日(土) 「もう一度大学で学びたい!」

第3回 11月27日(土) 「病気の人を助けたい!」

※再放送は11月19日(金)~12月17日(金)の毎週金曜日14:33~15:03
※タイトル、内容は変更になる場合があります

熊本大学公開講演会「知のフロンティア」2010

受講料無料

政策創造研究教育センターでは、本学の知の還元を目的として公開講演会「知のフロンティア」を毎年開催しています。本年度は下記の日程にて開催。皆さまのご来場をお待ちしています。



第1弾 平成22年11月21日(日)

講師:鳥飼 香代子 教育学部教授
『環境に配慮したまちづくり
ーコンパクトシティの計画ー』



第2弾 平成22年12月19日(日)

講師:中島 誠 大学院生命科学研究所
(薬学系)教授
『分子の形を科学する』



第3弾 平成23年1月23日(日)

講師:谷口 功 熊本大学長
『くまもとのクリーンエネルギーを考える
ー太陽電池とバイオ電池ー』

■ 各講演会共通

時間/13:30~15:30(開場 13:00)
場所/工学部百周年記念館

※タイトルは変更になる場合があります ※詳しい講演内容は政策創造研究教育センターHP (<http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp>) をご覧ください

【問い合わせ】 政策創造研究教育センター Tel.096-342-2044 Fax.096-342-2042
E-mail: seisoken@gpo.kumamoto-u.ac.jp URL <http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/>

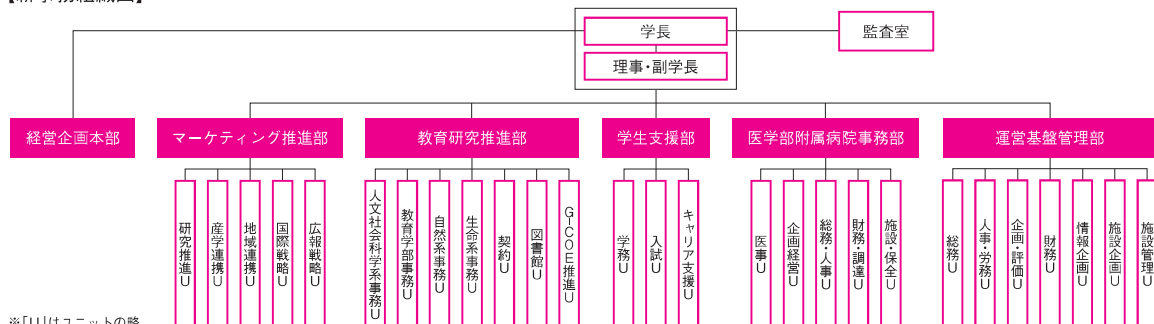
本学事務組織が変わりました

本学事務組織が10月1日に再編されました。これは、本学の自主・自立を守りつつ、その理念・目的とする「教育」「研究」「地域貢献・国際貢献」を今後も果たし続けるために、旧来の事務組織を解体し、「大学経営・運営」を担い、自ら成長していく組織として再編したものです。

新組織には、大学の経営企画を全面的に支援する「経営企画本部」を新たに設置。そのほか、「マーケティング推進部」「教育研究推進部」「学

生支援部」「医学部附属病院事務部」「運営基盤管理部」の5つの部を設け、それぞれに部長を配置することで、意思決定の迅速化や効率化を図ります。また、各組織の使命を明確にすることにより、使命の実現に向けて必要な機能や業務を積極的に充実させ、職員それぞれが「大学運営のプロ」として自覚を持つよう促しています。

【新事務組織図】



熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます

No.11(平成22年6月1日～8月31日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様からご寄附をいただき、平成22年8月31日現在、その寄附総額は約4億1,090万円となっております。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成22年6月1日から8月31日までの間に入金を確認させていただきました個人198名、8法人・団体等の寄附者すべての皆様へ

感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前がもれている場合は、誠に恐縮ではございますが、募金推進室(電話:096-342-2029)までご連絡ください。

なお、第1期の募集目標額を10億円としております。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【100万円】	医療法人出田会出田眼科病院	【50万円】	高橋 誠一(110)
【25万円】	田口 宏昭(50)	【22万円】	渡辺 恒幸(25.4)
【20万円】	荒牧 陸雄(25)	谷口 功(60)	藤田 良光(22)
【5万円】	粟津 八郎	佐藤 敦	長谷 義隆(25)
【5万円未満】	一木 政彦(5)	古崎新一郎(5)	辻 時夫
			永田 勇
			春田 洋一(125)
			武藏 泰雄
			宮村 信博
			山崎 進

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

赤崎 正則	荒井 俊勝[2]	荒木 令江	荒木 昌典	荒木 幹生	有光 克之[2]	池松 義員	伊藤 淳一
今村 貞夫	岩永 保人	宇佐美しおり[6]	衛藤 修吾	大串 涉	大久保 明	大津 政康[2]	大原 淳
尾崎 真一	小村 芳之[3]	兼城 鎮雄	川筋 道雄	岸田 克明	岸本 剛之	木村 剛之	清澤 雷太
小牟田幸治	齊木 一弘	齋田 護[2]	坂井 良一	坂口 上	佐藤 文生	重信 明寛[2]	柴田 泰行
下山 高生[3]	城島 裕	白濱 孝英	鈴木 研治	角崎 康弘	関戸 睦弘	関谷 英城[2]	高森 友視
武本 重毅	長 順一郎[2]	土田 華寿磨	恒雷 起彦	出口 俊雄	寺本 仁郎[2]	飛松 憲夫[2]	富安 真二郎
豊村 研吾	中熊 秀喜	永田 虔二	中田 晴彦	永野 睦弘	中村 賢二	野村 耕一[2]	萩原 正泰[3]
馬場 秀夫[3]	葉山 武志	平永 博[2]	廣田 孝史[2]	藤川 次博	藤崎 順子[3]	松尾 忠明	光田 浩
宮部 直	三好 幸詞	村井 淳男[3]	村上 顕示	村上 章二	柳田 敏孝[2]	山内 穰滋[2]	山崎 眞信
山本 克彦	山本 秀幸	横尾 ともみ	吉見 忍	渡辺 忍[2]	渡邊 光高		
医療法人社団明保元内科クリニック			医療法人邦真会桑原クリニック[2]			東京五高13年会	
山本建設株式会社			有限会社ヨシムラ商事				

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されない寄附者

個人102名、2法人・団体等

「熊本大学同友会第24回総会」が開催されました

熊本大学同友会の代表幹事である米満弘氏、森正臣氏、赤星敦氏をはじめ会員50名、本学から谷口功学長、田口宏昭理事・副学長及び各学部長、並びに岡村宏熊本大学同窓会連合会会長のほか各学部等同窓会会長が出席して、「熊本大学同友会第24回総会」が8月24日(火)、ホテル日航熊本で開催されました。

本学の卒業生および修生を会員とする同友会は、会員相互の交流を図ることにより会員の経済的活動を助長し、地域経済の発展に寄与するため、昭和62年3月「熊本大学経済同友会」として設立されました。その後「熊本大学同友会」と名称を変更し、年1回の総会と年3回の例会をはじめ、各種会合が開催されています。

当日は、谷口学長からあいさつと「熊本大学の近況について」の報告が行われ、「医と工の狭間で」と題して、村山伸樹大学院自然科学研究科教授(工学部副学部長)による最近の研究成果についての講演が行われました。

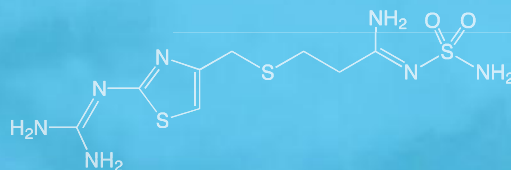
今後は、本会の目的として、「母校である熊本大学の発展に寄与する」ことが会則に明記され、大学や各同窓会との交流、情報交換を深めていくとして、盛会のうちに閉宴となりました。



知を創造し、薬のスペシャリストを育み、次世代へ羽ばたく

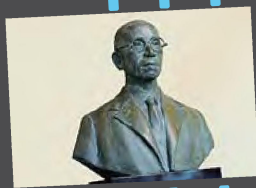
そして2010年、

熊本大学薬学部125周年



1885

私立熊本薬学校設立



1949

熊本大学薬学部設立



1964

大学院修士課程設置



1985

熊薬100周年・大学院博士課程設置



2010

熊薬125周年

記念事業

記念講演会およびシンポジウム

特別講演「サイエンスの発展と技術 ~ 若人へのメッセージを込めて」
記念シンポジウム「熊薬への熱い思い」ほか

日時／平成22年10月30日(土)

会場／熊本大学薬学部キャンパス

記念式典・祝賀会

日時／平成22年10月31日(日)

会場／熊本ホテルキャッスル

大薬学展

日時／平成22年10月30日(土)~31日(日)

会場／熊本大学薬学部キャンパス

熊薬創立125周年記念事業の情報はこちら

<http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/kumayaku125/>



国立大学法人 熊本大学

Kumamoto University

熊薬創立125周年記念事業会

〒862-0973 熊本市大江本町5-1 TEL 096-371-4105 FAX 096-371-4639